

事務事業名		道路河川愛護作業交付金事業		所属部	建設部	所属課	建設工務課
総合計画体系的	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>		所属G	公共維持G	課長名	西川 徹
	施策名	(12)生活道路の整備		担当者名	藤原 敦	電話番号	0854-40-1063
	目的	A)市民(道路利用者) B)生活道路(市道)	意図	市内を安全に移動できる。		(内線)	2463
	基本事業名	(036)生活道路の維持管理		予算科目	会計 014002	款 02	大事業名 道路施設管理事業
目的	道路利用者	意図	安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。		項目	101025	中事業名 道路愛護事業交付金

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (22年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 雲南市内の地域道路(河川)愛護作業による道路等の維持管理 ①草刈、道路側溝清掃等の道路愛護作業を自治会単位で実施 ②自治会から市へ愛護作業実績の報告 ③自治会へ交付金支払

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	28年度実績(28年度に行った主な活動) 雲南市内の道路(河川)愛護作業実施に係る交付金支払 ・自治会から市へ愛護作業実績の報告 ・自治会へ交付金支払	29年度計画(29年度に計画する主な活動) 雲南市内の道路(河川)愛護作業実施に係る交付金支払 ・自治会から市へ愛護作業実績の報告 ・自治会へ交付金支払			
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	ア 参加者実績	人	12,633	12,499	12,395	12,500
	イ					
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	道路河川愛護作業参加者(雲南市各世帯からの参加者)	ア 各戸1人の参加を目標(雲南市4月世帯数)	人	13,653	13,811	13,921	13,900
		イ 雲南市市道延長	km	1,158	1,163	1,160	1,161
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
・ボランティア愛護活動による道路、河川の維持管理の実施。 ・日常的な道路愛護活動の気運醸成。	ア 自然環境・景観の保全のために何らかの取り組みをしている市民の割合	%	49.7	66.4	65.3	70.0	
	イ 自然環境が守られていると感じる市民の割合	%	73.5	60.4	71.5	70.0	
	ウ 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	58.0	60.0	71.9	59.0	

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳(28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)
道路愛護交付金等の合計 大東 1,914千円、加茂 816千円 木次 1,319千円、三刀屋 1,210千円 吉田 109千円、掛合 22千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
27年度から作業単価100円→140円(2回目以降50円→70円)		県支出金	千円			
		地方債	千円			
	その他	千円				
	一般財源	千円	4,213	5,421	5,390	7,040
	事業費計(A)	千円	4,213	5,421	5,390	7,040
	正規職員従事人数	人	18	18	7	
	延べ業務時間	時間	395	395	280	
	人件費計(B)	千円	1,536	1,546	1,111	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,749	6,967	6,501	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・作業参加者数の急激な変化は起こっていないが、今後、過疎、高齢化等の影響で減少が予想される。 ・ボランティアであり作業に参加してもらうことに意義がある。	・旧6町村で基準が異なっていた参加者補助金等を平成22、23年度の2箇年度をかり「愛護作業交付金」とし、交付基準の統一を図った。	・愛護作業の参加者数や作業負担に応じた作業交付金の配分を求める要望があった。 ・自治会から、高齢化しており以前のように作業ができなくなったとの意見をいただいている。 ・議会から、交付金増額の要望がある。

事務事業名	道路河川愛護作業交付金事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	・愛護参加率が向上することにより、愛護作業延長が増え、道路の安全性、快適性の向上が図れる。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	・市の関わりを廃止した場合、参加自治体、参加者数が減少し、市道の除草、側溝清掃等、市の維持管理予算の増額(執行額の増)など膨大な費用負担が発生する。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		・道路河川愛護作業に、協力いただいている市民のみなさまのボランティア精神に基づくものであり、他に手段がない。
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		・旧6町村ごとに異なっていた道路愛護交付金を統一した直後であり、現時点で事業費削減のための交付金見直しは、参加者の減少につながる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
D 公平性	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	・参加者交付金について、H22年度より、交付金交付要綱が統一され公平・平等・効率的な配分が行えるようになった。 ・総合センター毎で行っている「実績報告の受付審査、交付金の支払い業務」が本庁で一括集約された場合でも、参加団体毎の対応となるため削減は見込めない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	・殆どどの自治会で道路愛護を実施している。 ・道路の利用は、地域住民だけでなく不特定多数者である。 ・参加実績に基づいた交付である。
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
		B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		・ボランティア精神に基づく、愛護作業が全自治会に拡大するよう市から必要な働きかけを行う。 ・作業参加者の高齢化が進むことから作業参加は一定の段階で頭打ちとなり、その後、減少の方向となることが予想される。		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																		
<p>・高齢化などにより以前のように作業ができなくなったという意見を自治会から聞いているが、ボランティア精神に基づくものであり、できる範囲で今はお願している。</p> <p>・自治会未加入の住民、企業や団体のボランティアなど、更なる呼び掛けが必要である。</p>																					
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上	●																			
	維持		×																		
	低下	×	×																		
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																					